

鴨川清掃センター概要

《施設の沿革》

昭和61年3月	竣工
平成14年9月	恒久対策（ダイオキシン対策工事）
平成17年2月11日	新鴨川市誕生（旧鴨川市・旧天津小湊町合併）
平成21年・22年度	21年度末で天津小湊清掃センター及び鴨川市・南房総市環境衛生組合焼却施設の焼却を終了し、鴨川清掃センター1箇所焼却することに伴い、鴨川清掃センターの更新工事を行った。 ・可燃性粗大ごみ破碎処理施設建設（163,800千円） ・焼却施設各種設備等更新工事（373,580千円）
平成22年3月	天津小湊清掃センター及び鴨川市・南房総市環境衛生組合焼却施設の焼却終了。
平成22年4月	鴨川清掃センターにおいて市内全域の可燃ごみを焼却。

《施設等修繕》

- ・毎年3～5千万円位の予算を掛けて修繕工事を行っていた。
- ・今後は施設の老朽化が更に進むため、今まで以上の予算をもって維持しなければならないと予想される。

《施設の運営状況》

- 収集 職員 22名（内非常勤職員10名）
車両 可燃物収集車 11台（内天津2台）
不燃物収集車 9台（内場内使用2台）
- 持込受付 職員 9名（鴨川：職員1・非常勤4名）
（天津小湊：職員3・非常勤1名）
- 焼却 職員 11名（3名1組で3班及び日勤2名）
基本24時間焼却とし、ごみの量によって19時間及び17時間焼却となる。
（2炉1時間約3ト）
- 事務 職員5名（内1名天津小湊清掃センター）

設 備 概 要

項 目	内 容		
処理方式	流動床式焼却炉		
処理能力	(1)ごみ焼却施設 95トン/日(47.5トン/時間 × 2炉) (2)可燃性粗大ごみ破碎処理施設 4トン/5時間		
設備の特徴	破碎ごみ供給機より給じん機を経て焼却炉へ連続的に定量供給します。ごみは、炉内で激しく流動する熱砂によって砂層全体へ均一に分散され、短時間に乾燥・燃焼します。		
建物の概要	(1)工場棟 構造 鉄筋・鉄骨造り4階建て 高さ 約18m(煙突高さ40m) (2)可燃性粗大ごみ破碎処理施設 構造 鉄骨造(1階)、建築面積 142.22 m ²		
排ガス処理	(1)活性炭吹込装置(乾式処理) (2)消石灰吹込装置(乾式処理) (3)ろ過式集じん装置		
排水処理	(1)ピットの汚水 焼却炉内に噴霧し、焼却処理 (2)プラント排水(洗車排水含)及び生活排水 凝集沈殿処理後、焼却炉やガス冷却室の噴霧水として再利用し施設外へ出さない完全クローズドシステム。		
環境対策	(1)排ガス <ul style="list-style-type: none"> 排ガスに消石灰と活性炭を吹込み、ろ過式集じん機でダイオキシンを含む各種有害物質を除去 		
	排ガス排出基準値		
	項目	基準値	23年度(最新)
	ばいじん	0.02g/Nm ³ 以下	不検出
	硫黄酸化物	K値 17.5 以下	不検出
	塩化水素	200mg/Nm ³ 以下	20.6
	窒素酸化物	250ppm以下	76
	ダイオキシン類	5ng-TEQ/m ³ 以下	22年度
一酸化炭素	100ppm以下(1時間平均値)	4.6	

○放射能測定関係

・焼却灰中の放射性セシウム（単位：Bq/m³）

	清掃センター				衛生センター	
	主 灰		飛 灰		主 灰	
採取日	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137
7/7	50	49	208	243	46	72
9/14	21	27	不検出	不検出	59	57
10/14	21	19	27	19	59	67
11/11	17	31	73	79	41	54
12/9	14	12	77	101	48	60
1/13	不検出	不検出	47	66	40	30
2/10	49	71	45	67	43	64

※処分場へ埋め立てる際、1 m³当り 8,000Bq を越えないこと。

・排ガス中の放射性セシウム（単位：Bq/m³）

採取日	煙突中段（ろ紙部）		煙突中段（ドレン部）	
	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137
1/19	不検出	不検出	不検出	不検出
2/7	不検出	不検出	不検出	不検出